

視聴覚教育

NO. 421

発行日

28. 3. 30

発行

岡崎市AVL

編集

現職研修委員会

学習情報部

これ知ってる！？

『ファイナライズ』

DVDに映像を保存した際に、他のビデオ機器で再生できるようにする最終処理のこと。これを行わないと、記録に使った機器でしか再生することができなくなる。ただし、BDはファイナライズ処理を必要としない。

平成27年度を終えるにあたって

学習情報指導員 北野小学校 内田 雅之

現代社会では、日々「最新」が入れ替わり、新しいものが誕生すると同時に、定まった答えのない問題や、様々な矛盾も発生している。私たちは、それらに対応すべく、高い専門性と組織の力をもって、この一年間、様々な活動に取り組んできた。

情報モラル教育においては、平成二十五年度に始まった「情報モラル授業モデル案」の作成・配付が三年目を迎えた。生徒指導、道徳、特別活動それぞれの知見から作成された授業モデル案は、実に二十九を数え、「みんなで取り組む情報モラル育成授業」が岡崎市全体に定着していることを感じる。しかし「ネット利用状況調査」では、小・中学生ともに「ネット依存」の状態にある子供が存在すること、さらにその割合が、わずかではあるが増えていることが明らかになった。ネット利用が避けられないこれからの社会では、子供たち自身に、自分にとって最適な利用の仕方、つまり「付き合ひ方」を考えさせる授業づくりを進めていくことが重要である。

二年目を迎えた「タブレット端末活用授業モデル案」の作成・配付により、数・理・英の三教科の授業におけるタブレット端末の活用が定着してきた。それどころか、市委嘱の研究校である葵中学校やパイロット校である新香山中学校では、様々な教科・領域にも活用の幅が広がっている。また、小学校に

においても自主的に研究が行われるようになってきた。このような状況を受け、授業の本質に沿った、より効果的な活用法を提案していくことは、大きな意味を持つとともに、継続的に取り組むべき活動である。

また、自作教材制作の面では、「おかさき映像教材研究会」が制作した六つの教材全てが、県自作視聴覚教材コンクールにおいて入賞を果たした。中でもマルチメディア教材では、これからの岡崎市の教育に資するため、様々なデバイスで利用できるHTML5による制作が行われた。これらの作品が、多くの授業で活用されることを期待している。

さらに、校務の情報化の面においても、今年度は大きな革新があった。岡崎市小中学校教育ネットワークシステムの更新である。個人認証とセンターフイルサーバーの設置によるセキュリティの向上、そしてグループウェアの導入による情報共有の利便性向上は計り知れない。加えて、それに伴う「岡崎市情報セキュリティポリシー」の改訂に際し学習情報部のメンバーが提言を行うなど、これからの岡崎市の教育を支える事業に深く関わることができたことは、とても価値あることである。

このように、今年度も多方面において着実な成果を上げることができた。これは岡崎の視聴覚教育・情報教育の水準の高さを示すものであり、学習情報に携わる教員の情熱と、伝統に支えられた組織力の成果である。来年度も、子供たちのよりよい学びのために、更に充実・発展していくことを願っている。

●視聴覚教育あれこれ
●平成27年度 愛知県自作視聴覚教材コンクール
●生涯学習部門
優良賞

『家康と岡崎』 家康とともに歩む未来

水野 利明 (六名小) 成瀬 正和 (羽根小)
神野 裕美 (六西小) 内田 敏明 (北野小)
荻野 悠 (翔南中) 鶴園 遼雅 (広幡小)
内藤 恵三 (竜海中) 村田 貴志 (井田小)

○学校教育部門 (1)ビデオ教材

『洪水を防ぐために』 水と共に生きる

森 綾子 (下山小) 杉山 康子 (生平小)
山口 秀樹 (竜美丘小) 河上 翔太 (梅園小)
鈴木 彩水 (岩津小) 木村 朱音 (岩津小)

『育てる漁業』 三河湾のクルマエビ

岡本 昌也 (矢北中) 鈴木 一史 (竜海中)
島田 繁直 (六西小) 井上 清美 (夏山小)
吉見 明 (羽根小) 成田 道俊 (竜海中)
海藤 健児 (豊富小) 中根 良輔 (翔南中)

『ブルーベリー農家の挑戦』 日本の農業の未来

赤堀 大知 (矢南小) 近藤 雄一 (東海中)
佐渡 英彰 (矢北小) 荒井奈穂子 (岩津小)
白井 浩太 (六北中) 小野 晃伸 (城南小)

佳作 『目指せ！平泳ぎマスター』 兵藤 裕美 (根石小)

○学校教育部門 (2)コンピュータソフトウェア教材

『完全網羅！中二理科実験レポート』

太田 尚志 (北中) 岩川 皓司 (葵中)
小田 哲也 (新香山中) 高瀬 玲子 (愛宕小)
服部 将也 (梅園小) 加藤 明 (小豆坂小)
武田 泰実 (竜南中) 小林さくら (本宿小)

優良賞 『流れる水のはたらき』 森 綾子 (下山小)

『みっちりやく！地元の新聞社』

加藤 光 (竜美丘小) 三輪 恭之 (六美中)
坂田 健一 (岡崎小) 中山美奈子 (矢南小)
大塚 真悟 (梅園小) 内田 雅之 (北野小)
長谷川 誉幸 (葵中)

佳作 『Mシンの使い方』 徳 尚和 (六美南小)

『外角の和が三六〇度になることを説明しよう』 徳倉 千秋 (葵中)

実践報告Ⅱ

ネイティブの発音で英語の授業

恵田小学校 藤田 宏

英語の学習で特に大切にされることに「発音」がある。子供たちが正しい発音を聞き、発音することが、小学校の外国語活動では大きなポイントになっている。しかし、教師の中には、英語の発音に苦手意識をもっていている者がいることは事実である。私自身、授業前の教材研究では、辞書を使って発音記号を確認するようにはしている。しかし、それがネイティブに準じた発音に結び付くかという点、残念ながらそうではない。

そこで利用したのが「Hi Friends」というソフトである。教室備え付けのパソコンにインストールされており、これを使用することで、誰でも簡単にネイティブの発音を再現することができる。

実際に、このソフトを利用して、会話を中心とした授業を行った。まず、ソフトから流れるネイティブの発音を聞かせ、それに続いて復唱させるといった形で授業を進めた。子供たちは、場面を映像で確認できるので、大型ディスプレイを見ながら楽しそうに復唱した。



反復練習するうちに、子供たちの発音は、大型ディスプレイから流れるものになりに近いレベルにまで達した。「上手に話せるようになったよ」「もう、発音覚えちゃった」と、ネイティブの発音に迫ったことに達成感を得た姿があった。

これからも、このソフトの利点と起動が速くなった教室用パソコンの性能を生かし、発音・発生を大切にしたい外国語活動を心がけていきたい。

レッツ・トライⅡ

「リニアPCMレコーダー」の活用

前任校で、音楽部の先生から相談されたことがある。「器楽合奏の練習では、教師の指導で合奏を作りあげていくが、さらに子供たちには、自分たちの演奏に対し、愛着や誇りをもってほしい。そのために、子供たちが自身の演奏を聴き、よい点や悪い点を見つけて話し合う活動を取り入れたい。よい手だてはないだろうか。」

「聴く」活動には、高音質の音源が必要だ。ところが学校には、それができる機器が存在しなかった。授業記録を録音するためのICレコーダーはあったが、音質的には心許ない。そこで活用を考えたのが「リニアPCMレコーダー」であった。リニアPCM録音とは、音楽CDと同じように音源を圧縮しない高音質の録音形式である。たまたま私が、趣味で野鳥の鳴き声などを録音するために所有していたものを使い、演奏を録音してみることにした。

私の機器は、高性能マイクが内蔵されており、三脚で固定し、録音レベルを設定すると、驚くほど高音質の録音が可能である。実際に子供たちは、自分たちの演奏を聴いて、曲の仕上がり具合を実感し、喜び、さらに改善したい点を話し合うことができた。

この分野では、現在でも各社から様々な製品が発売されている。授業記録も鮮明に録音でき、手軽に音声ファイルとして扱うことができるので、学校における活用が期待される。



(形埜小学校 学習情報主任 浜本安彦)

ライブフリーだより

市内の小中学校が数々のコンテストでの入賞や振興助成などを受けています。結果は次の通りです。(敬称略)

●第5回コラボ実践コンテスト

最優秀賞

『作品を通して関わることでコミュニケーション能力の向上をめざして
ニケーション能力の向上をめざして
「ともだちをつくらう！」』

生平小四年

特別賞

『ICTを活用することで、子どもたちの学習意欲を高め、関わり合いを促す授業
～六年生社会科「わたしたちの願いを
実現する政治」の実践を通して～』

北野小六年

『言葉をつなげて～連詩を作ろう～』

生平小一年

●第17回キューブ活用コンテスト

活用賞』ものがたり ともだちとおでかけ

いろいろなおうちに入ったよ』

生平小二年

【編集後記】

数多くの実践事例や様々な情報をお寄せいただき、ありがとうございます。中でも意欲的に実践された実践報告やレッツ・トライは、多くの先生の参考になったことと思います。来年度も月報「視聴覚教育」は、いっそうの内容充実を図っていきます。よろしくお願ひします。(広報部)

